



カトリック町田教会
町田市中町 3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512

いかずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



「雷の子」創刊号
1959年9月27日発行

ペロニカ苑の園生が作製した十字架の燭台

竹の節目、人の節目

主任司祭 小池 亮太

『雷の子』は、今回で三〇〇号になります。創刊号が出て以来、担当された方々が一生懸命に作り、発行してきたものが積み重なって、その数が三〇〇になり、こうして町田教会の歩みの記録である『雷の子』は、一つの節目を迎えました。

節 特徴とする植物に竹 があります。夏に清々しい緑色の空気が吹き抜ける竹林の中を歩くのは気持ちの良いものです。また、冬に音もなく降る雪をその葉に乗せて灰色の空の下に佇む竹林は一幅の絵を見ているかのようです。

伸びていくことができます。また、「竹は節ありて風雪に強し」という諺があるそうですが、確かに竹は風雪に身を任せながら、それでもしなやかな強さを持ってそれらを受け流しています。その強さとしなやかさは、竹が節を持つているからで、節がないまま十メートルもの高さに伸びたなら、雪や風を受けた時、簡単に縦に裂けてしまいます。

また神の祝福を願います。このように、私たちは意識していなくても人生の節目で、神の導きや神との関わりを思い起こしながら、人生の次の段階へと歩み出します。しかし、神に感謝などできない節も人生にはあります。それは多くの場合、「試練」と呼ばれます。しかし、それを利用して次の歩みを始めた時、「試練」という節は節目へと変わり、その節目はやはり、人になしなやかな強さを与え、歩むべき方向を修正させます。そして、「試練」が自分にとって大切な節目となったと気づいた時、人は神に感謝すること

になります。このように、人は成長しながら人生を歩んでゆきます。目を世界に向けてみれば、人々によって紡がれていく歴史にも節や節目があります。日本の暦には、立春、春分、立夏、大暑、冬至、大寒など、「二十四節気」と呼ばれる節目があります。立春も過ぎ、暖かくなってゆくはずの二月中旬に大雪が降りました。その数日後、日比谷公園を歩いた時に見た、雪の重みに耐えかねて、太い枝が折れた何本もの大きな楠木の無残な姿を思い出しながら、このような事を考えていたのです。

今こそ感謝と信頼の時

運営委員会議長 安藤 康弘

信者総会後に運営委員の欠員補充が行われ、初選出の方が選出されました。地域ブロック連絡会の各地域の連絡員さんも、初めてお名前を拝見する方がいらつしやいます。新しく教会のお仕事を手伝って頂くことになった皆様、本当に感謝致します。それと同時に、今まで教会のために沢山ご尽力を頂いた方々、今後も継続してご尽力頂ける方々、改めて申し上げます。本当に感謝致します。皆様一人一人の力が教会を

一見忘れがちですが、嵐の日も雪の日もミサにいらっしやる信者さん、教会には行けなくなっても病床でお祈りして頂いている信者さん、全てを挙げることはできませんが、全ての人達がいて、教会は形成されているのです。

「えっ？ミサに行くだけで良いのか？」って……。教会の名簿上、千何百人の信者のうち毎週教会でミサにあずかる人は、どれくらいいるのでしょうか。

善い悪いではなく、私達はそれぞれが、適性、力量、立場などにおいて異なるので、誰もが同じように能力を発揮できる訳ではありません。

ですから、お互いを尊重し「感謝すること」を忘れないで頂きたいのです。

とは言うものの、「教会の仕事」って、そんなに難しく大変なものなのでしょうか？私はその考えをいませぬ。難しくしているのは「皆さんの気持ち」ではありませんか？自分には関係のない他人事だと思いませんか？運営委員会発足当初にもお願いしましたが、「皆様にもっと教会に関わってほしい」のです。

過去に頑張った人、ずっと傍観してきた人、教会での日が浅く何をどうして良いかわからない人、皆さんの中には

能力や時間を、できない理由に挙げる方がいますが、現在頑張っている人達も状況は皆さんと変わらないのです。

是非多くの方々が、教会運営に関心をもち、ご協力頂ければと思います。

そこで、「頑張る人達」を支える皆さんにお願いがあります。「信頼して見守って」頂きたい。

人それぞれに考え方や方法論は異なるものです。一旦任せたのなら、「以前はそうではなかった」とか、「これはこう決まってるから」という発言は控え、サポートする側になって頂けないでしょうか。何故なら、「皆さんが信頼して選んだ仲間」だからです。

被災地支援 萩島 崇

町田教会の活動グループの一覧表を見ると、いろいろな方がいろいろな活動をしているのがわかり、大したものだなと感心させられています。

被災地支援と言っても実際に私が関わったのは福島県の白河市だけで、援助の品物を持って仮設住宅を数回訪れた程度です。ですから被災地のほんの一部です。それだけです。被災地のひどい状況、

(5ページに続く)

平和への道と基盤としての兄弟愛

(イラスト: 池永廣美)

教皇フランシスコ2014年「世界平和の日」(2014年1月1日)のメッセージ

1 兄弟愛

2 「お前の弟は、どこにいるのか」(創世記4:9)

3 「あなたがたは皆兄弟なのだ」(マタイ23:8)

4 平和への基盤と道としての兄弟愛

5 貧困との戦いの前提となる兄弟愛

6 経済における兄弟愛の再発見

7 戦争を鎮める兄弟愛

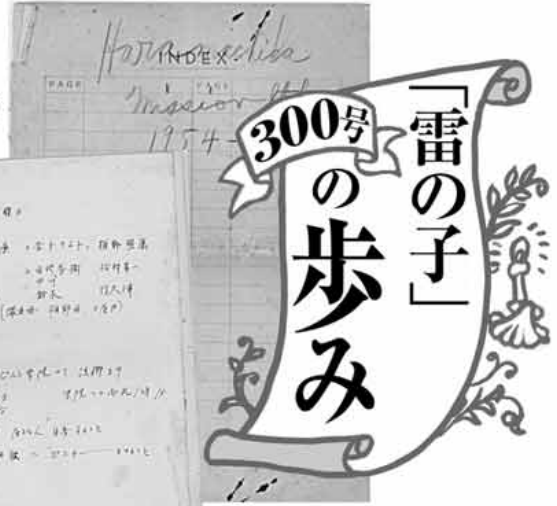
8 兄弟愛を脅かす汚職と組織犯罪

9 自然を守り 耕す兄弟愛

10 結び

教会報の先史時代▶

信者宅で持ち回りミサの時代の記録。大学ノートにミサの日付、場所、参加者（信者、求道者）数等に加え、ミサのようすなどが記録されている。



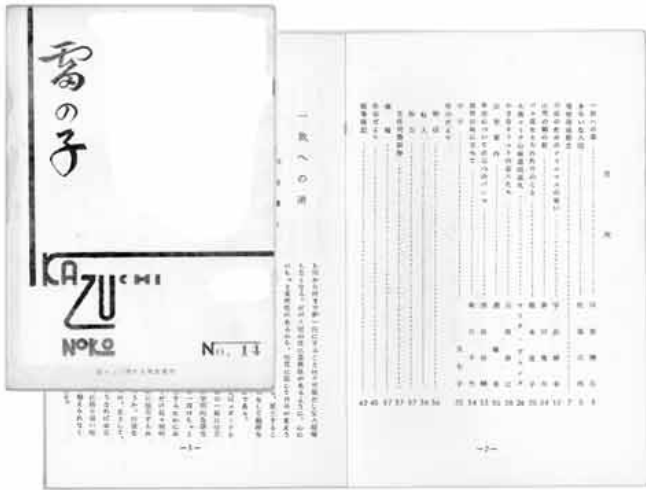
献堂記念号(1958年9月)



◀ガリ版刷りの冊子形式。「雷の子」としての創刊号は1年後（1面カット参照）。年1回発行で、編集兼発行者は青年会。財政上の理由から、3号は原紙切り以外（印刷、製本）はすべて青年会が行ったという。

第2号（1960年5月）▶

教会の財政状況を反映してか、広告が掲載されている。シウマイ実演販売、パーマ、婚礼着付、など、当時の編集担当姉諸兄のご苦労がしのばれる。広告料は半頁1500円、全頁3000円（1968年当時。ちなみに喫茶店のコーヒー1杯100円の頃）

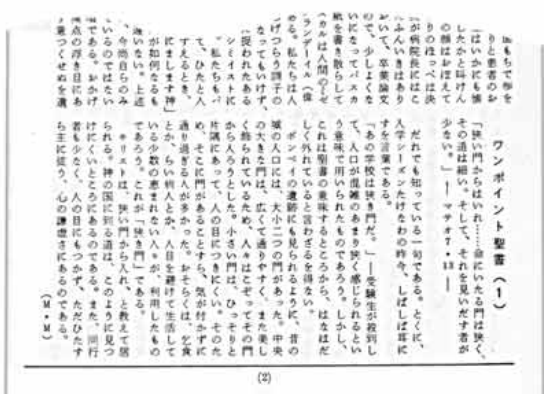


第14号（1966年12月）

この号から活字印刷になる。目次が入る。

第92号（1976年2月）

名物コラム「ワンポイント聖書」が始まり、1994回まで続いた。



第20号（1969年6月）
毎月発行となり、冊子形式から現在のリーフレット形式に移行。
ヤコボ会が発足。発行者もヤコボ会になる。

第139号 (1982年2月)

▶トップにカットが入り、現在の「雷の子」の体裁が整った。



第210号 (1995年12月)



終戦50周年の号では、小学4年生の作文が一面を飾った。



▲献堂40周年特集号 第224号 (1998年10月)

第241号 (2002年2月)



教会のホームページが完成。「雷の子」のpdfファイルも添付されるようになった。



▲献堂25周年特別号 (1983年9月)



1990年、佐藤敦俊神父着任の際に付されたカット(ひよとして神父ご自身の作品?)。



▲新聖堂献堂記念号 第238号 (2001年9月) 教会の工事期間中、広報の仕事は長年「雷の子」の印刷でお世話になっている八昭印刷さんの1部屋を借りておこなった。

第265号 (2006年12月)



教会の諸活動紹介のための「イラストルボ」開始。すでに35回の連載が続いている。

「雷の子」一面を飾る口絵カットは遠山悦子さんと池永廣美さんに交互でお願いしています。また写真はCD化したものを坂井剛さんと山口良樹さんからご提供いただき、紙面で活用するとともに、教会の記録画像として保管しています。

仮設住宅でのひどい生活などを垣間見る事ができました。

一軒の家で「今日は」と声をかけると、その家の人だけでなく隣の家の人までが「はい」と答えて顔を出すくらい隣の家とくっついています。

被災する前までは広い家でわいわい言いながら家族が楽しく暮らしていたのに、一瞬にして家族を失い、家を失った悲しさはどれだけのものがあるのでしょうか。今まで住んでいた故郷にはいつになつたら帰れるのでしょうか。不便な仮設住宅の生活がいつまでも続くのでしょうか。

町田教会の活動の一つに山谷支援活動というのがあります。直接被災地とは関係ありませんが、やはりひどい生活を余儀なくさせられている人達です。ここで少し触れさせて頂きたいと思います。

毎月第一と第三木曜日に教会のキッチンで婦人方が大きめのおにぎりを一〇〇個以上作って下さいます。それを主に男性の信者が夕方隅田川のほとりのホームレスの人達に配ります。毛布にくるまって寝ている人もいます。冬は屋根のある家の畳の部屋でも毛布一枚で寝られますか。まして路上で毛布一枚あつても寒くて寝られないでしょう。毛布が無い人達は想像を絶す

る寒さです。

町田市の成瀬に「地の星」という障害者のための施設があります。教会の信者さんが創設時から関係していて、「ともの会」という経済的援助が目的の組織も町田教会から生まれました。

遠いフィリピンにも日本からの経済的援助を待っている人達がいます。家庭が貧しく学齢になつても学校に行けない児童に一万二千円送ると、一年間学校に通えます。

日本で迎えた成人式
中村 梨和

去年の12月から今年の1月までの25日間を、私は母とともに日本で過ごしました。短いけれどこれまで経験したことのない充実した滞在でした。日本でのいろいろな体験のなかでも、一番印象的だったのは成人の日でした。

フィリピンでも女性は18歳、男性は21歳になつた時に「デビュー」といって、社会にデビューすることを祝う習慣があります。それはどちらかというと家庭でのお祝いです。ですから、日本の成人の日は私にとってはまたとないエキサイティングな経験でした。

12日、主日の町田教会での成人式はとても心温まるものでした。集まった人たちみんな

なが親しい友人のように祝ってくれ、成人になつたことの大切さを感じさせられました。この素晴らしい式を用意してくださつた方々に感謝します。また、キリスト教徒としてこれからの人生で神様のことを忘れないうようにと、神父様が祝福とともにロザリオをくださった、とても幸せでした。

翌日の13日には、朝3時に飛び起きてホテルに駆けつけ、大騒ぎで着物を着つけてもらい、市の成人式にも出席することができました。みんなきれいに着飾って、友人たちと来ていましたが、私は父と母に付き添ってもらいました。私は誇らしい気持ちでいっぱいでした。だって、私はもう子供じゃない、強く、独立した社会人になつたんだと自覚させられたからです。そう、20はもう単なる数字ではなくなつたのです！ 一生の思い出になるこの機会を与えてくれた神様に感謝しました。日本人とフィリピン人の血を受けたことに感謝し、素晴らしい家族と友人に恵まれ、この経験を通して異なる文化と伝統をもつ二つの国が私の心の

「教会は野戦病院であれ」ということ

久保田 伸

フランススコ新教皇がインタビューに答えて「教会は野戦病院であれ」ということを言っておられます（中央公論2014年1月号）。私は大きな衝撃を受けました。

教皇が「野戦病院」をどのようなイメージで語っておられるのか、小さな私ですが記事から抜粋してお伝えしたいと思います。

野戦病院ということ
『教会が今日最も必要とするのは傷を癒す能力です。信ずる人たちの心を温める力です。身近さと親しさです。教会は戦闘後

方の野戦病院だと思えます。重い傷を受けた人に、コレステロールや血糖値を尋ねるほど無意味なことはありません。まず傷ついた人々を癒すことをなすべきなのです』
善きサマリヤ人のように
『教会はこれまでしばしば些細なこと、小

さな疵にかかりすぎていました。最も重要なことは、イエス・キリストはすべての人を救われた」という幸いな知らせです。教会の司牧者たちは何よりも第一に慈悲の司牧者でなければなりません。『……教会の司牧者は慈悲深くなければなりません。人々の人格に対して責任をもち対処しなければなりません。隣人の傷を洗い、手当てし、立ち上がらせる善きサマリヤ人のように、人々に寄り添っていかなければなりません。これこそ混じりけのない純粋な福音です』
外に向かう教会
『教会は、戸を開けて人々が来るのを待っていて、来れば受け入れるだけではだめです。新しい道を見出す教会、内に籠るのではなく、自分から外に出て行き、教会に通わなくなった人々、「……」無関心な人々のところに出かけていくような教会であるように一緒に努力していきましょう』



なかでより近くなったことに感謝しました。

(翻訳文責編集部)

「一粒会担当委員」になって

鈴木 節子

一粒会(いちりゅうかい)、初めは何と読むのかもわからなくて、バザーのお茶席でお抹茶とお菓子をいただきながらお話を伺った思い出がある。その頃は献金だけだけど、何もしいよりはという気持ちでいた。今思えば心のどこかで他人事のように思っていた。私に今回、東京教区の二十二の宣教協力体からなる一粒会運営委員会へ参加する機会を頂いた。そしてその会を通して、叙階なさった神父様の母上とザビエル祭(神学院祭)で御一緒した。口には出さずとも大きなお恵みと同時に、我が子の叙階をどのようにうけとめられたのか私には知る由もないが、何があってもすべてを信じ、ただひたすら担う決意をされたであろうことは、親と子で重なりあうものではないかと、売子子をなせる母上のとて自然な振る舞いの中でふと感じた。

司祭の召命は、神様が選ばれた特別な人に起こるといイメージがあったが、神様の計画に「特別」はないらしい。一人一人の神父様がいてくだ

さるから迷いながらも教会に集うことができるし、大人も子供も赤ちゃんも男子なら誰もが人生の歩みの途中で神父様になるかもしれない。神学院からの帰り道に、次に続く神学生を願う「祈り」の大切さに気付かされた。いけない、いけない、大切なことを忘れないように信じ祈り続けたい。

犠牲献金

中高生会

12月 8日 13,489円

(ベロニカ苑へ)

1月 12日 10,699円

(ベロニカ苑へ)

2月 2日 14,227円

(ベロニカ苑へ)



クリスマスお泊まり会
(12月14日~15日)
ケーキ作りやプレゼント交換などの楽しい1泊2日。



2013年度 一粒会 献金実績(円)

1月	78,550	7月	125,600
2月	84,800	8月	114,900
3月	163,300	9月	73,400
4月	149,200	10月	147,000
5月	48,800	11月	67,100
6月	99,600	12月	181,300
合計			1,333,550

広報より

歴代の主任・助任司祭はじめ広報を担当された諸先輩たちに敬意をこめて300号をお届けします。この節目にふさわしい成人宣言がフリーピンから届きました！
「雷の子」次号編集会議予定
4月6日(日)09時30分
於会議室



意気軒高！
ヨゼフ会新年会(1月26日)

信者動静

2013年12 ~ 2014年3月

(個人情報のため、削除しています)